扶桑拾葉集

二十九下
三十終

扶桑拾葉集巻第二十九下

目録

賀古宗俊別　豐臣勝俊

道奥別　同

後陽成院御誕生之事　同

祖母のひとをけの時乃事　同

父二位法眼好ひ之時乃事

宮内庁書陵部

妙高後谿いさめる辭

吉原遊廓といさめる辭

稻荷丹後といさめる辭

林叔勝といさめる辭

ふるの松

[illegible]

きなりし

なふ[illegible]と

同　同　同　同　同　同　同　同　同

辭世

同

拾葉集巻第二十九下

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光國編集

賀古京澄後

豊臣勝俊

山上臣憶良やはかと作りし雑歌の
伝承の通りに京澄乃ぬしまうける
歌あり年の友きてもろひと人ぞう
ことかりなれた萩四維門もしうしたき
をあやまちんよりを吟て和々ふる
ものしに情もおほろかなるはいとし
ちかをとゝ保とゝもひぬんといひを

こせてこそふあすのほとあてこそけ
ものおもふ身のなぬさもそなへぬるうら
いつくるふる行のうらにあてやむ
へくもあらぬ袖ゆゑ冥きへよをくれ
ものおもふをもてすてゆめのしること
我今羅網よりていやしきちまこと
いかれもまたてふ楽のあこ戸ハ風を
ものするあんあもしさむしやふと行ゆく
しかく東西のとこめをさまてうも
をもあすおのいをやすくぬるてふくう
やをなこやうトを見わひしさそ修況

のあしくあすまれおそれすまあうひ
ものをしのいあてきこあてるあう
凡まをあれふる東のあめまあ
ひいつめうるあかうとていかなし
錢送も行ものをすこきなれたこひ
腰ゆかをワせこうこひなこもきまい
きこんとれもひしもこうていと久
く世あ所をうあひいせうるあし
君を又あひ思こうこうみもうゆ
くこれをこうやはをきこきこて
のふもゆるこうこつなれ世もあん

まえあつこう ひきうえ いそや そうえん
男子ハ こもりをつとすることし
をとめくらなとうて分をさとすやうな
名をすて 世橋そらら 部き 書の
きこをうこうまきけ めそそをのうそ
わあれて 筆のまま書つまと
てあしまよひてくるくれみうあと
かうこうるきれていきんある紙ほ
まて いしまけるきめしもあきうあ
すや書氏のきとん 仁
人をなかもてきとこうこうへきなう

ねとれまひまひていうこいひてんう
あをあ日を こうやこのうちもおけき
きてへうんをけうも
なふうきもの物のあるあうあん
ふうの友ハおたえんも

道園銭別

同

ひきわいうよ髪ほうまて眠うけあん
とすしもいまき人をうすを戴をふ
らひしゆきの月ハお年のあるる
なしとひうきて次あをかむとるう

けるさいはいをとせるもまて情をくれ
ふりをもの古るまるまるよいはちす
ふれぬとなりけるを今ハむけ
よまてをくとをくとをくとおもくをいてや
ゝ開をてゝる松の扉をまくたくく
杉もあるを那波道矢といひしおのこあり
もとよりひろくるひつまやうゝをかふ
ゝろさしをゝゝ欽吏藤先生ゝ
ものるゝしゝゝもゝゝいおほゝゝゆゝひ
ゝゝをゝゝゝゝ好ゝゝゝん一とせ月
ゝゝゝのゝゝしゝゝゝゝゝをゝるひ巳

ゝ海彩もゝをゝん家のゝゝゝれてい
なゝゝゝゝゝゝゝしおほゝをゝ人乃塚
あゝんゝゝゝゝゝゝ上ゝよゝゝゝほゝし
きゝ久作ふあゝをゝんよゝゝゝゝゝるん
めゝゝゝゝものゝゝゝ病あゝゝよゝわなん
今ハのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ宗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝて悔ふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のけむゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

世をうしなう波のぬきをねきて
いふうなれたるくつきまする
あるは遠よりく水むまやのかをおし
くおもひやるうもふかうもよりわ
ちきなくやいあるあ春秋のそれもみちを
そもそうし無せしておもひ出るよう
なるはうもよりうろうろあるうあ
もれさんをほいたるくもわるくてよ
あるいせうろうひうやまうるナ
もううもてつもはるるおきるけ
さうもえうあんあるふん

桑弧蓬矢豫先定　男子別離何足言
黄葉黄花同不賞　秋風秋月共難論
杳溟放得一帆影　珠玉相携千里魂
楼上従今應望盡　寄書鴻鴈向寒温
天地のみほうろうそれうそや
人乃うれしもなるひうあけん
人の世よのうれうけるワもちの
うれ乃ほうあひうそうそ
あるうもあるすいなるすいつもうの
れもひのつるみひもうもあるる
もの月おわる明乃月のけよりも

[illegible]
[illegible]
[illegible]
大[illegible]とのゝ小路の名をつゝ
[illegible]人とあんとおもへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しやうの御製をわらとなりて
はなをくるものいふことのはも
中くらうはあいきやうのみとのう
せいの大納言ゆかりやかうはなりて
のしかはわふしおきくらおれは
つまはわすれいるあうりのえのそこを
ふのうきまなけきをしてい来れかて
ふあをしはりとかすはしてなをいる
せいをかはなりをはふはやまの人
いもうをはしたのはうをかをうへ
てあをきをしの言はとうねしていて

うをれはをうをしてうをひいてうをれはる
をはいをををまをうをんを作を草本を
うをあをんう
祇のなをを油乃みををなをる世
むかしを和ををやうを
うを世うれをやれみをすむ月の
ををうをををよをこうれて
をのえををはをうをををみを
むうをれをうをはををを
おをはをををみうをけをと思をいを
をををを和をををを

紀十郎あまりなる雲乃上
なる月も夢乃秋風
つゆはらいよそへあさぎぬ中にのこし
衣もうすき秋人乃ふれも
うらすゝ毎もぬるゝかつまゝ
きくのしらつゆ
死生何異益人愁昨坐清涼今丁丘方
荆棘無心埋玉體滂沱涕泗水如流

祖母の思ひよそへてゝ

同

むかしよりいつるゝてゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こころの月やすにとむる春

父二位法皇のおんひきの歌

同

おほれもてこもるわかの秋乃夕つゝ
うのほのふるさわらほとゝきすと
のもりのもくさをかるこゑ
るゝ山をわけ[illegible]ものこゝ
しいんとくとゝきす小萩うへ
をわけもん玉のゆくゑ乃高乃ゝるけゝ
せめくかもつゝるゝこゝとつゝきせ次こ乃

よゝをゝをせゝつゝふゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一度のうちことゝもあるいひとゞめかし
きこゝやなりもしむきゝてこゝにさつねお
のこゝとそれなりまてゝあるへきやうを
うゝもあるとくこゝのをゝくるふこゝろ行
らんうゝこゝもけいしゝ給いけなるむきこゝて
のゝうへくるへしあるゝれてゝなりほゝてこゝろう
あり行ゝこゝもなくゝるへきほゝこゝろと
ゝゝのゝのゝみくやゝゝもゝこゝろおりまゝゝ
しまゝゝまゝゝ給ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
めそくやうくちもとをあるうる
うれやうと信そむと言ふんそ
とのえをりかうしんらとうる成へれ
れあてうをはうせとのうふかもく
きまい泉よりいれりうえのなうと
徒よりそまるうをとらくみ背の山人せ
いるんうんをやうるくのうに出月中
の二日うをうるひうるさすまうる行
めいそいしてもあまりあるあうをせそ
しひつきい定家の以外ふうとはのの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中くらのうたにおりはたてひちりそものそ
ちりぬるをわかよたれそつねならむうゐの奥やけふこえてあさきゆめみしゑひもせす
ことはりさんりそこの海より生ふるえいこうなれはなく
つゐくこそやうやうそのおりてかりうり
こんりんあるこう向氏うたの乃文のそれ二の卦より
おなりてそれはしまりしきにちすとちりん
んにんやはうきんこのちくさめの門
乃すなはちみてのアそれはうつてあるのそ
ちそあるひ百まん家乃文みれ春こゆるうり
はるはあらそひくやしこれ人のみてきと
アえてそうりあくおさまりなるあうり

ロ乃ゐひとのそをちそこあうゐ筆ゐう
ていゐ風そひこうをはうにちふつて
ゐそそ南の海ゐひく赤人ゐ三月ち
れそいひ海ゐ三ゐ家ゐひ
そひ玉つま入江の水ようゐる月れ
うそそて蛛乃ゐまひねくそくと
アゐ姫の乃ゐそれるそこて聖
廟菅氏ゐれまゐ文相みそそあ家
の玉うそゆれまて圓乃月れうゐい
うゐれうれ碑の文つうまはくふて
ゐうく桐如ゐ出門ちおゐ

[illegible]
ひのつてにさすらへ都府楼のあたりの
あまのすまひくかきあつりそのむつり
とあやしそその根のかうさとそむこれそ
ひとりあめしらんもうけるこはさしひく
うしろそもたにうえしれ水とそるる
なれとそくく家とそそ世のの文
をそこはらへきそ芸道そうけるや
見れなのあさ北のせうむそしても
いうるらうおうしたん すれも孔門の
戸はそとうきみをるの家乃ねうとさし

匱よりくせうもひうみさそせる
おうるうるとやうそあるあ人乃
とそりやや京極の黄門いそはのうよ
とそいうものの人うるそん祢さそるる
すうくあやしきの祭らうとかくう
あもうのいうさうのすい
せんうくさふうひとのしとそはるや
わんそのひあるはかりくいそにあくも
のうとうとうそしてうつのあ体の
そうふそすけ赤いかやそあるうにうう
あはとあうそひうそいうものうそ

十五夜のよるなれば月のくもりなくてすめる誠撰のわた
なかとうちかすみたるもまたなかるべきにあらねど
なるけうとき花上の雲にうるひとまとけの
むかしよりあるる秋の月はかりさへすみ侘ぬ
尾花の袖のうへにかかるのみ姿をあらはす
ちひさきむしの声をきくにつけてもあはれ
なるひけむよいはるたまとうたるんとも
なりぬべしとなれば日ごろまちしかひあるこそ
まれなるふまれ物いひるるよりはるる
いとくるしくてのちはりきりうしひ黄生
とうたいもるるんやあらしせつきれ

霜ちんとたいたれば九よりあひてかくれはて
はるそうきよくふるそやくふるよりひけら
ぬるよりはるぬるいとうぬ人なるいとらかこさわき
ぬるたるかりまれはなるつもりかきうりそんむ
つるそうつてつるねそうえんかるるるそ
人るくれるきなるそふるいてあるれるる
きてるそうるるるやるのるいいるくるやあ
するとるひいれるれるるかほてきるる
るるつひするつきるきそ見るるね
るるひくるるいるるものるるふ
をるれそなるるるふるるるつる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまとうた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

可悲一夜文星墜テ　秋風俄ニ摧ク藝苑英

又

三十余年西ト東　往来如ク影伴フ春風ニ

交情未ダ及ブ駑駘ニ　空作ル挽詞ヲ聊カ報フ公ニ

又

天喪ヲ斯ノ文ヲ否ヤ　遊魂帰ス太虚ニ

威儀憶ヒ冠帯ヲ　容貌曳ク衣裾ヲ

不用封セラルル千戸ニ　所貧書五車

法然メリ雙袖滅　何ノ助カ又能ノ除ク

あまのかるもしほ　やよ為いこけ乃下なる

うもれ木の名とりつけ草

行るもしほ　しらめをあらいてあるとうん

多のうもれなるさいはれをあるもの

玄肯法師をいるめる系

同

玄肯法師いとう八十

ちやうやうあんとうきんあるゆの人

行めて丁拾をとるるこるる

そのうふのをかもひまをさわとう

仏をなるるめんうるかくく

あるれなるわるけるおろくしるる

やまくもあるくふあるとゆの

[illegible]
[illegible]
[illegible]

法華経をとりてよみたてまつる
ことをはりてのち
ほどなく八月十日よかの
正忌にあたりよりてさらにやは
りをこなひ給ひしを二月のなかばに
てこれをはじめ月乃出いるまでや
とりあつめ給ひしを雖怪とも
なのりなく

ひとりすまんとのみをもへば
わがこの十日よりてし月うゑ
おしまれ行てやいかにあはれ

ひとりこれをあはれ
魚の上乃山とをもへばひすまれすの葉も
えうえうとひまもなくなりぬとをもへば
やまひしげ川の水をもなれさりてにたりこと
よりなるうらいまうらのなかめてを
しなうとをもへばのあめうらいまのみ
花をうつす秋乃山をうつしてをもへば
まいおもへあうまへをけをいてをもへば
さうひ遠なるあうまへをもへば人のと
ひかりくいとうとうとをもへば老
らくもとまりてくりのせんあらをるや

と斗につくりとれば乃和歌に行基菩薩と
ゑがきたてまつりてあるをひめと名ア
地舟思のこゝろをもて下しとおもひやるかい袖と
あけくれさしかさしおもふれとろふるく
いひすてしわるこゝろもさなくかしいろ
うゝゝまろこひ慧いつむゝゝゝ筆本さ
よあり澤とうゝゝするゝ巣というく
してういこゝにつくゝ法名ゆ陸奥国
うふういこゝかゝゝゝ菩薩ゝゝゝゝ
くをゝゝゝゝ行ゝ者にせゆゝゆるせむ
すゝなゝにつゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ

い勇えういひゝんやゝゝとゝゝの道なゝは
法名ゝくゝゝ大樹のゝゝゝゝつゝて
ものつゝにゝゝくゝふれゝ和歌ふ
いゝゝくゝゝゝゝの道とやそけくせ法
つゝゝ忠とゝゝゝふゝ代のゝゝゝ
ゝしゝゝゝゝ江山いくせの道ゝくく
ゝ天の橋立乃ゝゝゝゝの星にすゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ道のゝゝゝゝ海ゝ
ゝゝゝの泉ゝゝいゝゝゝと水上ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

の一聲なきくものこころもふかく風情をめでて
ゆくゆくはなにはの大内をやの
山乃かなたをふかくひいられられ遠よりの
そてんをなかめつゝ旅しそれとなくこの
紫のいろかくかのたれおもひあり
さんぬ風乃つくるそもちろうわたし
きくこゝろいしいかもよふ初わかもはしき
そのいるのさそもそのゆゑろうやれ
思ひ七りあまりとつくゆくもそまるし
このちりにこゝろやこゝろてこゝろき
うあるこゝのうあるこゝのうあるこゝ

たちひかるこゝろれしこゝまやこゝるこゝるこゝ
こゝろこゝろれ一まこゝ今こゝくこゝあるよわこゝ
ゆこゝろれおりけこゝそのくこゝこゝこゝこゝんの
竜の沼海ゆこゝもふこゝれつこゝいこゝ雪
ひりこゝろこゝおこゝもおこゝおこゝこゝ
紫いやこゝくこゝむこゝいこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝのこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝふこゝこゝこゝむこゝ初こゝれこゝ
こゝ初こゝのこゝものこゝすんんのかかかこゝ
ルこゝこゝまこゝるこゝ花こゝいくこゝこゝこゝ
くこゝのこゝこゝこゝこゝれこゝふこゝむ

のりの道に帰依まつりて忘れまじと
いとも八雲の石やそうしを
とこしへに人いとうとき世のことの筆の跡
とつたへる筆乃あはれ
えてもひとおつるなきとあはれなりすこし
なれてとほるみちの水くきもすこ
いとなまめかしき乃あとふるものひとを
まつくいあるとこの世のとるなる
おもひおもひあるよりいかなる世にとこ
れなるのなるあらしの

稲葉丹後守とい[illegible]

朝のあにとこるなる多まわるの世乃わる
とこいふなわゆくみるうをむりうち
けいとこまくくるくのをおほうる
ゝやまといとあれ花の尊乃ものをんれ
りうの世のなるわるくくあるは鴻
やうのるまとそなるいとこれさまれ
海にまとかうとうるふるのとあを
きんまとこる名もとうくけるふれかのく
あるれのなかわくこうるくつてを稲葉
丹後守こうむ月乃廿日あるすてるんはう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

池すゝめもかなくゝきの笑乃衣
あるゝあるゝ称いてゝや母乃まして恋乃小堂に
しそくんさうのおかあるゝとゝくゝそえう
仏れ見いやゝくゝきれ草なりさるゝう
こ稚ゝゝそのゝんをゝれゝゝふなゝし
つゝひゝうるをゝくゝひて伯ゝ毋ゝゝせゝ
ゝゝまゝゝゝゝやゝつみく魂念ゝあゝいゝうゝ
あゝゝゝれんゝ称ゝるゝいあゝてゝひゝさ
ゝゝゝゝやゝあゝまゝゝゝるゝかゝせんせ
ゝけゝれゝあのゝくゝあゝれゝる一条の居ゝゝ
行伯ゝおゝゝゝゝ毋ゝあゝゝゝのゝゝあゝ日

あゝゝのかねゝゝくゝなゝゝゝゝゝせゝあゝゝゝゝゝゝ
ゝゝひゝゝのゝかゝゝゝゝ十日乃伯ゝゝゝゝれゝを
ゝれゝゝゝしゝゝへのゝゝゝゝ伯ゝゝゝゝゝゝゝゝ
君ゝ伯ゝゝゝの胸ゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝ伯ゝ朝乃
家にゝゝゝゝゝゝゝ世ゝゝ有ゝゝ伯ゝゝゝゝゝゝゝ称
ゝゝゝゝゝ伯ゝの竹ゝゝゝゝゝゝ乗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ仏人のゝゝゝゝゝゝれ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

林叔勝とゐる歌ども

閑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のるかたもむらたちいつるも
ちとせをへしゆるまろん道玄ん
わすれぬるかるる月乃ちりひそれしの日たい
もるとうなる孤乃ゆくりおかひい
りまるそのそらるるとてそれん
のまちひくるむ乃やそちもそのかさ
それかまちかり木すそ乃ろかるれる
ひるものかる爰ちろかんとかるさ
れかけるのすこい書ややなりそんぬと
やろうんをしひむるしきをとろさけるる
てなるかくるかるるるも巫山の彼女

乃ろをしんくるのうるをうやそんん
とすかわるんるそいからとせるくお
もひるぬるかるひるれるくるそるろ
けるるるひるんをあるものるねひるる
るくるるあるこるる乃る月めるるて
やーるひーるんいるたるん明書るら
るひむひるるてめめるるけふるるる
るぬ世の世乃ろるかるりるふるるる
けるるるるるけるひくる孤の日乃杉るる世
るるるるるるるるるるるるるるるる日るるい
出丹のるるるるるるるるるるるるる

七月に移りしのち、ひさうまれなる
中をゆしとそれもつさむさもれく
いいもやすくもそろまゆりわるまえ
こゑぬもそそひろけはろやあるとも
すはいろきおほしそんすうきき
ぬあるそくいはれもきれもせわし
祇をるれをすにるれさいけるくく
うれてん一口よはまるも光乃命いおくひ
わるをそるうしこんもるきえるとか
いしるおるくもの乃るくるつやるる
もそりるうるを春をあるるおれるふをとを義

ようを百度ふるてるるをくのかるるとおるひる
するるかるるいるるるるるるるるるるるるる
恨をるるけるるるるるるいおにるれを
をるるるる金をををふるるをいひるをふ
れを風海ひるるるるるるるるるるるる釈い
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
の寄おるく後名山乃るを栄えあるるるる
るるふるれるふ長川ふるるのるるるるる世北
やるるまるるや左門い矢のるるとるけつるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いしのうへにすむこそなるれたちけるゆ
ほうそ　ゆうやうさん

うなね松

同

屋そくのおやうとふこそれつくやいのちすて
けるこのうちわるうちこの君をもう
つきはうて母おもくさつふとうしろい
いるもんをたてつもえいきをもうしきき
命成ちうをひわるふるよとひのかうさいうう
をそわうくうこうちうさうやうれいいとよう
うつひしうみうおれいいてやむつうのゆう

おやを孝わうてもうしてはふうこいひをな
をうこうきふかい門樋のようひるうきうも
やしはかるまふらうくうきうてこう
十七よなわあうきうに紙ふくまふすう
もみそはいとおうしれて母をとうきゆう
てうきうやまうまうりうあうをもなれわの
すけうこうきうほうとうこん人もうれゆ
つうのうきうてお入もうこうゆくいうあうまか
しく仏神おもわうれいのうきれ去
如月のうきわつうきうつうのうほうふうう
ふうこれうきうれい第ようれをうすむうと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よそひもひきのこされたるひとのいと
るやまくくうとてわれそのようなていふ
せんくとわらめもやとはつてそひつなきとう
かなれとれしのきとれ梅のうさるそうふと
めのさいかりて君るそいてこそもそわしうい
ふらくひきそもそうれそきとそれ
るるそわも奇そたそれるも然くふわ
すそはゆうとはは世のはれおすひてそれる
らんうさそうはさしそそさらんそそうか
しうそなひれれうかのまりひうな人
なれとすふるつうはいあ沢二月の中

の五日ゆいまそうきさいとえうしくく
人ありうそひすくつゆのうそもとんそなれ
てうとうふうれとうきまそあそひまそかそ
くとういそよつうくくれまうそれ
ひうくくやつくしうるねのうくわうれそ
やまそうふまかうりはいとくさいるそうそ
ひううそうそとくくもむうくくとうそう
おすひつうれとれかくいううれうけんあ
それうのふとうもあんうういうれうそ人
それもおしねもそくくうせないうる云未と
えそふうくくうるうしそそとうけてひと

しくとなきうわ義毎のとくとくもひ
いけくるんといくまはーくむとあたのるまん
こころのうちをやねいつをかりるといくと
うらうれつき秋いろのうたるれるん
こころのようにんうてかやふるけもて
まちんつくこうもやすいゆきやれー
まるやまひのゆるこあるれりくい辞世のうころ
ようあーとうとうとうとあるの君のきな
うるおいてうきれふるもを行るむうちれ
めうふおーうんねつきうるるむいく
跡おくうるるていうるれるひとくあん

うまんてうるるうをそこるてたを絶てんも
きをひめそうるうりうれるよこ
ろやすくおはをこのひのかくいるさうるるく
しるるそつるまうちるてあるそーつる
峯白雲のそくくるこるーー義めるひ
うちやをむうるるんるるるるるいうる
うれをくこけのくるふもるるひ絶くまる
ゆうるくくと拭いくうくるひてれるひいまい
ううれるとるとあうするのなるいひやるつやま
うるくくふいるうるるるるるくんくう
ゆうるうるるおうるるるるのるいるる絶

はるばるとて初桜のはなのもとにおもしろき詩人のもとにおもしろき
ものつくるものとうせんと
花ゆへにさくらをたづねてこそやさき
よりうえのゆくすゑもしらぬこころとは葉と
ふしのうへにうつりゆき筆のすさ
びもあるれのこころをけづいも毒の
うえもうんとなつてつるふやうしのはれは日
うえまのうえあるしゑやしきふみてう
みんきえんさうの雲のうへにたなびくふ
きにいるむとうてうてうえ花のいろ
えすくつれなく今禅師名つけて豊臣氏

春光院萬花紹三とうに日枝いたてたもいつ
なるもあるいはなきしに桐如ねもないとも
とうけきうんこうてうや杜鵑とやらんとい
きねるとこのむよへて夜ねもせよもらるん
いまこのうへのうえのうつるまれく
ひとつせよもちりてひとつつれてこうう
ちるるくさまあるけれこのひとまつし
ゆのうれへともまれいつるんうれきあ
きこうはやそ母とひとくうちなひ
てむりもせていまのそれひあれうも
へうるとうけくのうんい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そのもとをいうことさうれい
人とそれていくとくゆる事
まれとえとくさんこそうそや
さうるき世のうひれしも
情なしいつち花のさひけん
ありひもちなるよすると
人の世そうふのひのさくそれ
それ中くもちうち
いまいくそとうめこうも
るそくるゆ伐うる
いけくようあうさうまる人を

四さそれひとそうけれん
なるけ有しせのことあるそひて
きうるき人をおもはぬれ
たく人すよやしふかさそうけのよる
わくとこのうしひ一云
くうそもかうれたのそめるかてし
なとあれとのうあうけん
なそ川わふるもかせうそうく
さうなとそれのもうそうせん
人くやすくうそめうそうのとうう
なくそもれそるふまき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人いきとしみそなやそれ
ときれなりけのそわるるふ
ひるし

よのなかいと一ぢうもまきうる絵
やうるれやうなるなる義の
とけうきかくわるれいるるう
るものやうひかつるかるう
いまいるくるるんけるものメへそ
なるるんうるるかるれ
うつるるるるるもるんるるまてい
るるるんとわるるるんるせ

義るるるなれしるるけかいるれ
ふいるれるるんよのるかいるる
るるれいるるるるせるるるふるれ
るれれれるるるるるれわるるるん
るひつるるるるるるるるるれ
るるるるるるるるるるるるるる
わけれるるるるるるるるるれて
るるるるるるるるるるるるれる
祈るるるい世るるるるるるるん
るるるるるるるるるれるるるる
わるれるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

去年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百ケ日ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆき灯とゝゆて
神のつゆしもをひをとゝや馬とゝふ
ゆき人なるふさんのこゝ
ゝちむひひ仏のまへひゝちうこ
ゝもまれおとゝゝゝゝゝ
やゝゝゝ村のむゝのゝゝゝゝすむし
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぶんのゝゝれゝいひものれゝゝまひるゝ
ゝゝまれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝむけるすむのゝゝ
ゝのゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なるまふのさかりもすぎぬ
うゑ人をなげくつゆもなれて
秋のゝ秋の月
いけるあいつゝやうゝ
まつ月をなぐさめてうすきあるゝ
こゝの梅のゝ秋はまさいるまぶゝ
ゝゝまれ月ゝとゝふゝゝれ
わまぶゝくゝ色ゝまれそおふ
ゝまゝゝれよあゝゝすん
まゝゝふゝゝ月やゝゝゝん
わまゝとわゝゝ人のおゝけ

風ふくあゝゝゝすゝのつゆまぶせ
ゝまゝゝゝれいつまゝく

雪のあけの日

ゝふゝゝ人ゝて消やすき
日けの雪とあゝれゝゝおゝ
ゝゝ人とゝひゝゝ月いくせも
わゝゝゝゝ庭のゝゝ雪

この山ゝゝゝ風ゝれてゝゝゝれ水池
のゝふゝゝゝいゝゝつゝれわゝゝゝゝ
人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝいゝのゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝに

なにとそいひなすべきことせいし
けんこそしらさるもふかうそや
まことにそのゆえ者にまさる
ゆきいまさるそいとをしき
世とそむんなくいなまこそ
ふくいてそるとおもふこそすれて
むへしよりのおくよ者そわ
世のうきよいまたなきもはくそむ
そやまいけんつゆやうきし
うのうれよ
けうらそいとをしきそれて

なにけうこそいてるとうのうれれ

詠一回忌長哥

いまそかはれ　ほうこの　そそ月の
ゆきめうい　おはさめ　やしむれ
みはるも　なはけると　あそれれ　おとそ陸の
まも先　ひうそふ　そもの原
あうそあ　人のうまく　こそ見よ　いあとて
ひのひ　仏よつく　さうそる　みうむれ
そうあ　ゆのあむ　よそなうす　そそれて
みのゆう　そうそ　このるの　そうすの見
そなは　そあや陸　むまれて　いのうそう

ひとしなみの　ひとすちに　さしいれの
こまうらに　ふるゆきも　そこのみを
なかめをるせの　せをわけて　きしとたに
ほとりより　つまとまれい　とまりあくい
ひもろぎの　うきたる雲　ゆくさなる雲より
せきのうち　れをふさく　ゆちまそ　ゆるさぬ雲より
くももあり　をくつむ　をれしくれ
まつをれの　あるをつ　あをふ　をすみけい
あるとこく　れやこの　ひのくなて
をるこよ　ふらくれ　ふれる　をれとをよ
をるこよ　あるらく　なるこちみ　こちをゆるこ
つるけえの　あるこちの　こちをふい　いまひとこひい

うるわしく　ふるそあめ　ふるとれて　をとめのあと
きこゆれ　ゆくふの　めるこそ　いつちこの
きこゆん　ゆ月さん　あの月の　あこそ色
ちるこよ　ゆくこよ　ちつふ　いそをこひ
こつまれ　ちるこよ　きこやと　ちこちとて
おもひや　ちるをや　ちるこの　ちるはなの
ふるゆき　ゆ毎も　ちりくん　ちりまれて
とをこふ　かをちの　いをちけん　ちるをの
ちるこく　いけをちの　ちるこの　ちるをの
ちるをの　こちをの　ちるこよ　ちるこもの
ちるこを　ちるこを　ちるこの　おれをこの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なきぬれば月も袖のうへに
このせふしをそうつみかな
来世をもあらんかぎりしたしさに
ふるさとの花過のかなしさ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

めしうしてさそわれし二月のいとすゑ
けんよりもおほせのそのをさをさうつる
雪の花ちらすを山里の木末おりうしと
ものうきもてうてうしておりのひとあり
ちらすひくいかりをすてくもあり鶯児
の癖いまるるとみるとみやすみひとて
みやゐのおほもとつけをきいるうてて
ちんしわすくるしく上憶ひて
金もおもきれば貧るをやとしひ
市原王と他をとうるとて木すいもも
わりとふなけきしものはおもてるて

ぬ旅のうちうぬ適おきれそいひて
めうちわふしもそれ別れもまは
もわぬあのこうれうそいわりけえ
わかくうけき月のひうりむひて
もなうれそのるれくはし
ひそもうしさしもやと
おもひなもはあやまひといくく
るねうひわうふんふとく
もれるけきうひやうん祇伯顕仲
むすれ服きうんうそうそうはつき
雲除のいひして四日うれね

つもやとうそくとう花衣
ゆきくれぬるひのみち
くのまさしらしをそ
わすれてたゆうてるく
このふくとそそすなりけり
はるをへてものうるそをしきて
ゆくへしらぬもはか
なものみつをかしらむ
たちはなのこころ乃姿はいかに
嗟々與子欲黄泉寸斷愁腸胡得全

魂魄招曾無入夢唯徽恩愛感前緣上

きりぎしの夜　同

八雲たつ出雲はすゑのことひ
の川よりわたるあまのはしはし
いまうきのことのそとはしら
ぬすまひやあるんとうれしき
花のうつもの少ゆるこころ
なりていはゆうせちすまら
ぬへきちちをすれとてて今生

こゝ出つゝおふぶ山ゝ形人よりさるゝよ
やる夜おりの こゝちそゝ出くゝをわさゝぬわさ
ゐまそ中こゝれそ弟をちらゝをわそれる
海さなとかゝふわうすの泉いゝふんよ
てあさ毛なゝゝめそん山ぶゝゝ毋るんとそ
ゝゝゝゝめくゝるちかゝさゝをのうゝと毋ひう
身よ海さるのなゝゝと言くゝすゝさるゝれ
ちひされもあふとるんと見いさちすゝゝや
ゝゝ月ゆゝうくゝを毛ゝゝゝゝいてゝう
ふまそ釈ゝくゝそきゝゝみなゝゝゝゝふ
くゝゝゝゝゝゝゝゝみなと白いてゝき

ゝゝかゝふ時とわゝくゝゝとふおゝうゝみめゝん
ゐひひさ海こさんもわちきれきわさうれ
ゝゝとをちゝゝいゐておさゝゝゐゝを夜
毋つるれゝゝちつひそゆゐひゝ大ゝる
のゝ紙ゝゝみるきわゝゝほと毋ゐ玉つきをと
ゝゝちをつくゝゝふつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝおゝゝなゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ白ひてゝいゝれるゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゐゝみふ升をいゐけゝゝゝゝれふ黄
横の月紙ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
にゝん中ゝゝゝれて志いゐの十七日とゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てもさうらひてそらかしうら
けぶ

かとそふみともひるんなそこの
しるさにれるもしは
えれとそそるくそのいのそとうきゆく
すちう

ゆるてみをせきそうみれ
それしちもかをるれとと
わすれんとおもふちはつきこうれ
みそをとそものみそをけ
ゆしあけそるそのほんとを

しとうれうまけのまそとそすくさも
のこれまていそしけいつとまち
わうしふそるきものをこそひみそう
しうをひねうくとわはせれて
れふすう弁やあまをそうけんをと
いひてもるれうそひやいわふいうり
もつるわくるそとおひしつむふそ
るなそくのくるまをせわもやちく
なうてまそふやなるもれるうあや
おそちハ門れるひもてあるく是ものを
まるそそをいうくやちもるもとま

つまね君とくらふるまにていつるなれかとて
とりて

ちさとのわすれがたうてかりしも
いくなるらんやしるべ
さてもわりつるふるさとのなりさまは
聞くにつけゆうすゆうそれをけぬ
ふ秋のよれ庵よりもあるあるあ宮も
そよふてふくもまつもはてあるていけて
そうりとなるをそうんそ

なふそのこを

同

花をみよ月をみよ月ハ月ハ雪ハ富士の
嶺いたくいわれて所うたるんかあること
ありしかなるうりしてきう世りか
まれありて時ゆくうにたうのいまほひ
うしる中にたれいはもそれみをと
ものひて屋うへふるるんあれかりかり
うちうちかりのあるうをとうとく
ゆまこうりへ原原こうはりもりもむむ
こうりしわりてしをとわうくい君るるあり
墨の墨りいりりてそい佛性同しくもく
又むへあり老荘佛れいつれもなるやし

物の部 あにのきぬもあらはれ
うゆまうもいとゝ人うらなし
辯せうさと歌ふ

同

王公といへども人君は位をうばはれすゑものゝやうにおしすて為のむまれいてさうん男たちまちていやしくまづしうんハいふすさまに死いやしくうるものやうひとの高てうらうてはしもなくとうもうきたのひをうるこれハ為に紙ゝうるとうう

てゝうるけしをうるすやうて
法ゆの為ゝさてもこゝぬをきて
くさ紙のやうなもありうり
わとまくもゝたやうをりてくらよ
出る紙ゝとうきつくる人ゝふをうり
ゝ

L

扶桑拾葉集卷第二十

目録

姫路いたつら辞　菊原幸家
肥後少將と悔る辞　菊原為景
悔窮文集序　同
於長嘯亭催花宴和歌序　同
奉納菅廟詩歌序　同
報源光圀詩歌序　同
又　同

九月十三夜和歌序　同
日光山法華八講記　同
仙洞御色紙記　同
八瀬記　同
法成寺法華記　同
成元院別記　同
関東海道記　同
前乃相模守殿和歌序　同
友成卿家和歌序　同
源通村

宇治興聖寺記　同

拾葉集巻第三十

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

娘をいとまあれ歌

藤原幸家

これをまあまつ山ぶとまつ山ぶとまつ山ぶとまつ山ぶと
ゆきをまきいくひろ姫小松はやまのかげ
ゆきをまきいくひろ姫小松はやまのかげ
ゆきをまきいくひろ姫小松はやまのかげ

[illegible]れをはくるうりくれよと
ら[illegible]れたりあ[illegible]
貞[illegible]院殿おもう[illegible]
こ[illegible]りけとぬ[illegible]
よ[illegible]ひぬ[illegible]
[illegible]ぬれり[illegible]
なるさ[illegible]
[illegible]雲の[illegible]
十[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]て南無阿弥陀仏を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

な　なるよあとのこゝろ[illegible]
あさ[illegible]
む　むこゝろやあるを[illegible]
心はやこゝろはこゝろ[illegible]
わ　われなり[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

肥後かね志利勢ぶかと
[illegible]

細川の侍き源れとう[illegible]なる世のわかれ所
[illegible]さえ末の代よいと[illegible]英雄[illegible]
今年寛永十あまり八[illegible]年十七月
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]封[illegible]とむへ
[illegible]時[illegible]の[illegible]
[illegible]逆後[illegible]
いちやきいさとし[illegible]年間
の[illegible]
拙[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春蘭別恨生
月蝕燕公辭
遺言憂國事
學武衛機察
萬邦馳逸氣
蘭砌逐餘臭
滾情江海淺
愁緒無由解

花落夢魂驚
星流諸葛營
至直感精誠
論文理義明
千歳仰雄名
雞壇尋舊盟
篤惠士山輕
歸鴻聊寄聲

惺窩文集序

同

伊藤仁斎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と称するひとつの林間のたたずまい
が聚くかの小車より[illegible]
大[illegible]やを[illegible]俗の屋[illegible]
せ[illegible]ひとのこ[illegible]
[illegible]いつ[illegible]花守[illegible]や[illegible]一本の
下庵作りあく山[illegible]すさ[illegible]
[illegible]やよいを[illegible]
[illegible]
[illegible]
みるやこしやあ[illegible]
[illegible]をのまい例のいと[illegible]

きいつ[illegible]いとは[illegible]く赤人[illegible]ひ[illegible]ん
大[illegible]や人[illegible]
きこい年[illegible]
[illegible]
[illegible]此[illegible]
[illegible]
[illegible]
地[illegible]
[illegible]つ川[illegible]
[illegible]遠[illegible]
[illegible]一村[illegible]
[illegible]

[illegible]三物の物[illegible]
[illegible]
先生[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

莊周が曰はく一すべてこの日
ひとひのあらそひのいとなみのものの
人あるいはゆるす先生はいかなる
なるかをしらざるなり
たとへばものの技をまなびて術
中に一方技にいたるもの
なをいたるべきものあり月をうつす
えんい
ものあり弾ゆみをつるものあり
東觀のうちにあるものとしるべし

奉納菅廟詩歌序

同

[illegible]

[illegible]

事とそ聞くの作りかさねの作
家ゝんゝこの秋はあはれみを
とゝめるく知うの世とゝなれまさ
ゆかん秋の光ゝ如春なりて如秋
くゝ千のこゝ紫とゝゝとなる
ゝ命く此頃いかゝ
持ゝんゝ力ゝゝゝゝゝ作ゝう
そのゝ事ゝつゝゝゝゝなれん
国ゝゝゝいゝ作ゝゝゝみあらゝゝゝさ
光ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ作のゝてゝゝ孫久
ゝくゝ家のゝゝゝゝゝゝ侍ゝ

の作りくゝさうえくゝつゝゝゝゝ井作ゝつよ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝまりとゝつゝゝゝゝ

報源光圓詩歌序

同

おゝゝ正保三ゝ初ゝ八春ゝ作ゝ
ゝ井の厚ゝ如かゝゝゝ卜巷子ゝ
ゝゝゝ孫を故郷ゝ絶ゝゝゝ
此十ゝゝゝゝ都ゝゝゝ吾妻のゝゝゝ
ゝ紫ゝゝ水戸の源黄ゝゝ作ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ被ゝ
編ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はるかに行へしられて年あまれる
ものゝあはれしのばるゝを
年久しうそわまて花のすゝをした
こ原きしこのとし月をかさねしを
伊勢物語のこゝろにまちわびぬる
おしもあるかをみつゝ泣なと
行とゝ有りけるとむしかるのつゆてる
さゝをもとゝ中將の君たんいあるをこの
ゆゝしはんきしあるゝて紙ひゝをふし
何を書りとゝやゆゝ朝かゆなつゝをゝを
こゝをゝおゝゝあまて やまと詩の

道りをんとやゝをゝ和をむしれ人わたん
事紙ゆゝとゝあゝ紙をゝひし紙ふ
なゝをゝあゝも伊ゝはゝるゝれゝあ
ゝまゝあゝ行つゝ君のゝもゝむゝある
ゝ紙牛もあゝをゝゝ紙ゝなゝ紙あき
ゝゝをゝゝあゝゝあゝゝゝゝんゝゝ
出ゝゝの行ゝ をいゝしゝ行ゝゝいゝゝゝゝ
人やあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ秦望の
不死の薬ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]の人よりあつめ[illegible]しそうさきの裏もこ
[illegible]まかりまいらせ[illegible]をへ[illegible]よりあつ
[illegible]をも思ふ[illegible]
て[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
月[illegible]
講武有餘力　學文加琢磨
書開千里面　衣帶一團和
逐水交初淡　御寒情更多
何時傾皂蓋　品藻大倭歌

又

[illegible]

同

[illegible]

きやうに うひきあひて 秋のかぜも はや心
ぬるまぬ 木陰より いかなるかぜか
吳とあるぬる 雨もまた ふるさと 梢
ふるぬる 橋を 見ぬ きみなせる
出河 そそぐ ひえ くとりを なかけ ひ
ふれる 白 紅 心の はや 紅うひて 年 ちひ
侍 ぬる ふ かく たう き 所 の ま と り
あつ ぬる いとむ もう 戌 ぬん てい い こ く
ぬる 侍 ん 変 う ま る
盃 が つ の ぬる ぬる こ り 何 ま て そ ま み を
あ ま せ う ま く を い 命 ま ぬ ぬ 命 ま う 侍 く

ある ある 詩 の 雪 ま る も よ ま ま ま ま を と の 色
い く こ く ま れ ぐ や ま ま 侍 ま ま を
む う を ま ま ま ん も ら れ し ま く
一 首 の う を つ く ま ま ま ま ま ま
う う 作 う の う き と ま く す る ま ま 言 う く き
ま 侍 ま と や し く う ま 秋 ん と す ま い と れ く
ま ち あ る ま ぬ う 探 く 陰 い 初 う ま ま い ま 面
か く て 侍 ま ま 都 ま ま ま ま ま 侍 ま ん ま ま 初 ま ね
あ 侍 う の 比 ま む ま の 比 ま ま ま ま ま 遠 侍 の
ま の 紫 か ら や ま と 二 ま ま ま 面 ま ま ま と
ま ち ま ま ひ 所 く う ま ん ま ま 侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又

[illegible]

九月十三夜和歌席

同

[illegible]

の月ふんるゝ笠まり市は中いらこの川
とりや をうゝぬ蘭若うゝめくこの良辰
をりてあうゝんゝ也へをゝひを書宿
まあまりとやいつれ重なる法師の玄象も
志ゝゝゝゝゝ記つふゝまゝゝてめ花
よかゝゝゝ書をれゝゝゝあゝれ宿
かなゝゝゝ天ゝをなゝけゝまゝゝと
さゝゝきあつゝよゝゝゝゝ春はゝきの
古寺の新緑の朱のはうなるを
るけき おゝゝいうふ書井は鶯やはまま
えゝんかの翠よゝゝ月の都より

あゝゝゝ塩ゝゝ塩をあゝゝのを
朱のゝゝ月よゝふゝゝゝを
ゆゝを書ゝふ春ほゝゝゝんゝ
泊ほゝふゝゝひゝ屋の朱ゝゝ
ゝゝゝゝ月ゝよゝゝゝゝゝゝき
とゝゝくゝゝゝゝゝふ みるゝゝゝふ入
ぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て名今音のゝひゝを はゝゝひゝゝ牧
ゝゝ月ゝゝゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]なるまゝにいとゝ[illegible]
[illegible]いく[illegible]を[illegible]寺は軒端は松の[illegible]
といふ人のようひをけは老[illegible]
[illegible]をさんやと

[illegible]ぬるを[illegible]
月[illegible]の[illegible]

この那[illegible]通後[illegible]
しら[illegible]を[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ遺[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ふ[illegible]
[illegible]かは中将の[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]

返し

やとる[illegible]
月[illegible]

日光山法華八講記

同

[illegible]
東照権現三十三回の神忌[illegible]

や天下ゆるされ初さまた
日光の宮より八講をなされる（実みと
はなりて前右府殿下をたのまれて
人をつかはされ御ちつきをはる事なり
贈太将府追薦也御願院御製ぶ
かの長汐門堂大納言
ゆきて行幸の儀ありて
をりなれる御心ぶかきわしし
あるもあり御はらたちて還御
なさるゝ也もかゝる
まをやあらまほしかりもいとをり
まをんことの条もいとをしかりやと

ゑ宮も人なきをり
うゑまちかねて来ぬ麻衣をうしろ
きら侍るもかの驥尾の名里とまを
ゆくもかの猴くらべまわし山よ林し
くゆくての道をとゝ
命をたゝる驛路の終のこゝろ
花をとりうゑかりて
こゝ松をきらせ侍ふ海ぬ井月あ
まり一りまを日なるむしをれり心月の
こりのんやをゝ風ゝうゝ
つきをのをたをうゝ

[illegible]
つまくまの山をもて満願構堂の地にて
補陀落山をなかとして勝道上人の初事三
度まうでゝ初て寺をいとなみ神宮寺精
舎をなす或国にたゝ師の建立をもとゝしい
とやくにてをい師録に書よみたりけ
る仁年中上人後世をもとゝ補陀落山記
いとゝ面やうも況又滝尾昌ん道場を鎮
護をなし満願中禅寺ハ観音蓮教を
うつしをき仏像をやしなうものをなしてこの郷にをいて
侍る満願構堂の周位をうしなを有字れ中将

朝臣の事何ゝまてあもとゝ[illegible]
[illegible]
右大将頼朝卿池殿を寄附をれ東澄
よみ侍りしやうの事うをゆ
うこうをもぬ下をれ[illegible]
とゝろをいさ面ゆしく造[illegible]
いとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]くいまとひもこよる竜の
むしばみるかのごとくなる松板をもて
[illegible]の尋のごとくなる物をもて
所の高き代をつくりたるかさむきを
いとはやくしてわれらの右みちのくにはなく
右の手はよりなる此願い寺院いまは信
なるに因りて[illegible]家筆をや仕たるの
かるに二玉門よりいるに金の鳥居よりあり
二人御花あるやうにて[illegible]を流傳集会の所
あるよ御藏あるこまに[illegible]
[illegible]上達部の花をうまつこの間新婚をも

て他変をしてさく導師をむかへるよりて
かひをもて又この階をのぼりて西より如地
堂あるひとをもて鐘鼓の楼あるをもて外
朝鮮國のものを華嚴いとおろかやうよ上
刻のものを坂あるやうひとを嵐の名を後
[illegible]朝夕の法をいまむいまは撞
諸々集会のものをもて[illegible]
琉球國のものをもて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

下一行ゝ[illegible]迴廊心の廊を
[illegible]の[illegible]屋と[illegible]陽羅の中央よりうつる
[illegible]屋と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]屋[illegible]清涼殿よりのわた
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]羅女といふもとゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
屋ゝ[illegible]十三ゝより御法[illegible]
證義は妙法院の[illegible]殿下をそ[illegible]
[illegible]の公卿[illegible]
四人[illegible]の[illegible]
音楽の行[illegible]ゝ[illegible]人をひきゐ[illegible]
むゝ[illegible]ゝ[illegible]

一曲は法の如ゝ近元廣有[illegible]
[illegible]ゝ階を[illegible]退出
行ゝ[illegible]の[illegible]賀殿胡鳥蘭太平楽
保楽遺王納蘇利[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
事と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

立つ程の法の傷ましき中に
ちまたを行く事さえ出来ぬ
て一とあれば世代は大変
きりつき法令こうは
つまるを陶さえあるいやあ新千
うれさえ我さえ
れこうしてこまるまで
申命ゆや文禄の二年えり
さえ保しまた貞観政要といつまでよりまして
紀元節なりなむ行状ていあ
さう〳〵ゆるゆるゆるゆる

一近思録清節集ゆ
ゆうきゆゆゆゆゆゆ
ゆゆ玉ゆ
一えてこゆあゆゆゆ
十七日を大権現の
ふゆゆゆゆゆゆ
諸家の見西の
人あまゆ
兵士ゆ
ゆゆと云
三社ゆい大権現中い日光権現

山王権現とゝや社可称人いつまもなきゝ
に称し
四月十八日ハ清華寺参詣
[illegible]
[illegible]
[illegible]

幢屋をむすびその上に八葉屋の形をつくりね
りつくり常楽の月輪をとりそなへ本地堂
の前にかけまいらせ高さ一丈五尺の桃
桃李巻葵天王授頭還城楽或小櫛の神よ
りとり給へり　或迦陵頻の舞を演ずる
童子もあり琴の音をあらそひ笙の音をあ
そぶ　十一月廿三日　三摩耶戒を灌頂神前にて行ふ
法教授光法親王　法親王大阿
闍梨を長治つ雲大僧正也　常楽八採桑
老新蕊鶴洴外林歌舞楽物梓也

結願のりきゑ譲義を公海大僧正に法事を
とりつくり綱素各奉幣はりより殿下を
伴ひ奉りてりもむをはりをしたりあるり
りけをぬきをまつりをのまもいりあるり
事わりつくり世ひりけるあまりり
十四五日八法華萬部経讃誦の僧文多二百
口をなむ
十六日より法華の四種のうちの観世音菩薩
のうちの名僧数をつくしてはじめよ
笛鼓の音をそろへ引足もそれ引
をそろへ引ものいへをはじめくるの

法會も[illegible]

大樹の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九[illegible]とのゆ[illegible]須の[illegible]れ

[illegible]やとる雲のうら風人

いまは又[illegible]すちうの[illegible]

山[illegible]おけ[illegible]

かしまの[illegible]

人の間まくなく[illegible]

仙洞御文紙記

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和歌は行基菩薩の
前の言つたまはる天龍を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬるゝみ行ハ
さん事をとゝ
ゆむゝことをゝ
みゝちよ世人ハ
ハゆゝゝ
うゝゝ
いゝとゝ
ゆかゝれ
なゝ

八郎のゝを

同

大坂乃城ゝのゝ
ゝ山ゝゝ
湯あゝ
使ひ
あゝ日毎ゝ
城ゝ
ゝ
多新枕ゝ
部ゝ
のゝゝ山部乃
ゝ

八瀬

名寄よいとをくの仏殿に後拾遺の
大原へ行こいるまよ意を持て感をとゝ
ゆるゝものゝそ好けるゝ古寄ひ出く
行くこんいまあ持なと物々な
世の所ゝ感せの山里
きゝやれ八瀬乃をもいるよ文
やゝく出ゆもをるゝ物なと

大原

山ハ雪打をひくいつゝるゝ和泉式部
なれ井尼ゝ古寺ゝみゝれ

く城ゝ麻衣乃ゝゝやまゝさいむて角て
ゝゝあんやいゝ川ハ恵慶法師ゝいやゝき
ものハ西ぬもゝいゝ紅ハ今も出もんを
思ふいとゝ色里い市柴方ゝゝあれ
ゝや西行寂然ゝ十首乃婚茶ゝぬゝふ
山家乃面影とゝつゝゝんゝゝゝ
是をとゝゝ今文傳つ角ゝあ紅ゝ
例乃服ゝ角ゝを

寺ゝゝゝゝゝゝ和泉式部
名ゝゝ面乃大ゝゝ紅里
清加井ゝ水

信濃路にうつるとき
あらぬもてゆもしあ
さんよ信濃のみて文
出をめうりすきて真
所しも白はあらぬ
いるんか秋ちゆく月
まされせうみ乃こと

臘清水

京京良遊乃二條殿
ものこんの桜の道とも
つ江の柳の高さ

水室ゆも白さう深く
ら異をとさ仏中を
屋も仏臘乃
ひをつ神も

小野

山岸をまゆ
ま苗やうつ
白ふく
細ふ
ゆ乃

小地山や白

[illegible]

[illegible]

暮城遊覽記

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]二字の部行り何も唐筆の第一
和歌い世事好住佐[illegible]吹行り大井川
[illegible]我古[illegible]あ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくてはるかに月を眺めて
はるかに海を越へ
新しく来りし客人と共
さのみやはらんを驚きを出す松の下にたた
ずみしまの月まさらぬ帰りなやといひ
ひとりとなりて
新しく興ありし山にひつ
ぬんこそなの歌のあるべく
ぬれば
言や山島いはしふ口も数とてとなく
ときはいひ
やあんの四面すべて性のこと

あひしてこそうるはしき
出たるもみなる構先生の行くと清
しかんなむ
ひるんなしてもんく
ひしわるわるあいやそ祝もの
きそりん出たる張紙の用の面窓
うつるぬ
いそんのはんしてもんく
きそのう筆のうしろ取の用

成文儀別記

同

五月五日

をなひはゝ多田源の高ほうふすみよ
ゆゝしきとして表乃下草をもりひく出
乃移りを秋たのもしてあいて流きて
れはゝ橋のもよ前乃舟ら
けふ小雷やわるとしてもよ入くるん必ず
ゆるゝ波あるふよ毎日蓋てめゝ
あくまかこ乃水草かきを新とまいよ
最求るとこ小何ふふ所ゝくひ
ちくゝやゝた腹敷をゝちあむ
ゆゝ乃ゝ者行ゝ乃ふよ流百本法よ遊ひ
ゝして所ゝ高ゝれゝ乃ゝ色ゝすゝ

あ事さめゝ笑ゝ海の新れもゝ部ゝ
ゝゝ年ゝ成文ゝ所ゝまひよなん海
ゝ乃ゝ者ゝ月ふもくひと見ゝ
立所ゝふ通ゝ水色屋といふこと

拾遺

川水ゝすゝ屋ゝいふ海ゝ
と雪ゝ清ゝ新ゝゝゝ

和童

数ゝゝゝ出ゝのゝはゝふや
ゝふゝ屋明ゝ海

秘書

[illegible]

水乃屋乃うすもくるれ

なとはふやさはく宿近くなるふまもふ

よ[illegible]はもの[illegible]あまもるんいももやと[illegible]

屋をも門よ入ぬとも[illegible]ふ[illegible]ぬまふ[illegible]

しんく[illegible]

やももしく三畳乃曲よりつも出り[illegible]

乃[illegible]聲も[illegible]

[illegible]と伊よ乃はもも[illegible]

してもと[illegible]

如ぬ[illegible]

うもん事とかく[illegible]

拾遺

[illegible]

今乃別とうふなけくれん

和歌

別くるいはうあひを宮めなく

人の命れはほとをもふれて

秘書

いふきん人のんもうら乃

あくもはて[illegible]と

とふこうもとと再まふ関もつ

すてんやまの道をこえやまをのぼりて

関東海道記　　源通村

元和八年十一月廿四日俄に勅をうけたまはり東国下向をすゝめ宗綱法師をつれ

離別恋慕情若艱　官梅不發待君還
高才正識類相聚　吟伴扶桑第一山

出門の形をうつす為句　龍をうつすとあれば

ひとすぢに雲のいりあひの山のみねをうつしもてゆく

同く書をうつしたてまつる侍

かたをかの第三の坂をのぼりて勅使

いたるとて

廿五日宿をたつる程に駿河の国

駿河の和田の山をこえ

いたりつくこの山のもとやちまたをうつ山

うつをしつゝ

宇津の山わけ

たづねつゝ人もなきかの人の

たのみをせしうたのやまの

梅の花ゆゑにとまりぬ侍よ浪の音近くすゝし暁

ひ者をうつさとみう浪とうつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

降つゝ[illegible]

[illegible]

十二月[illegible]

先年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海[illegible]

[illegible]人をあつめ

小田原[illegible]海[illegible]山あり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

十二月十六日 江戸と[illegible]

十八日 大坂のうち 梅澤と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思ひ[illegible]神無月[illegible]

[illegible]今更[illegible]

[illegible]刻[illegible]相[illegible]の[illegible]

恨[illegible]惻[illegible]の情[illegible]

神無月[illegible]時雨[illegible]

[illegible]徒[illegible]

袖[illegible]神無月

いつ[illegible]の[illegible]

わ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なくなりしと、那升信濃守大江尚政朝臣
ちなれあるうたをうつし霊仏膳膳周堅
乃法のあるよし山寺の廃をうつしてたてし
怠慢無乃志とそこひ不日仏像をなし
そしてよ為成をたてうふ件乃練石尚昔仏
仏什物ふ法光をうつ家よ武人若くいくつ彼
師手自刻むそこうろ乃釋迦牟尼尊わうと
光と同随善感収して則こひうして安置
師作乃物像世尊乃物之を今山時よりてはをうたる像
出現をうう精舎乃真隆よ仏殿あうるを
希代の機縁末世乃不思議とよ毎事をうう

乃をあるを師乃法語よ真蹟ハ一ちく真蹟実林
寺門道元記を法家よ不移乃人あるく寄附をうを等
新渡勅免乃贈物仏像ハ渡唐天祝国母伝説紀
貴を法影とそこうあるをもよるる
ハ畫像補佛の光をひよあるを後羅漢鼻を
裁して衆色を彩しを施をう龍田姫の御
もをとをうち織女乃手をうをもをうをめを
あやなれを為なうを稚を家紀ハ移よ秘を
とをうをもおるく嘆を光をを移をを天皇の
震翰年蓮法師乃手歌一篇を
ヤ下をうをとおをを寛元乃年をを加の

唐代撰述の氏族伝中集と号する経籍
志等の所載を記録し文を解説し今生世俗文
字の業相を綺語の過として特に将来
世に讃仏乗の因縁と成ん事を願
ふ事なり蓋和語は源実相真
如の妙理より出流和光同塵の應顕にあ
れば是仏祖明仏陀吾国の習俗ともなる
べきといふ事なり和語に依て貴き法を説
き事は如来説法の本意なり仮名書の
経巻とは別に心乃至
慈恵大師留給ひし諸門の法
報ひ奉る事疑意なきものなり

扶桑拾葉集巻第三十終

祖風をしたひ振起し法のとこしなへに
流通し絶せざらんことを願ふ
時に慶安三年十二月吉日 紀氏

西山英門五月二十四日の作なるべし
此歌の聖主を[illegible]はしめたる
所なる拾葉集に名津者
下[illegible]仁多郡稲川の作花序
[illegible]加毛多[illegible]
[illegible]家の[illegible]
東[illegible]の詞[illegible]の枝
[illegible]

はこの末にてをとゝ今のいまとなれ
和歌をば一つやハ

文化七年季夏　昌成